

19:23 さて、兵士たちはイエスを十字架につけると、その衣を取って四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。また下着も取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目のないものであった。

19:24 そのため、彼らは互いに言った。「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。それで、兵士たちはそのように行った。

19:25 イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。

19:26 イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。

19:27 それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

19:28 それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

19:29 酸いぶどう酒がいっぱい入った器がそこに置いてあったので、兵士たちは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝に付けて、イエスの口もとに差し出した。

19:30 イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

「十字架につけると」と、聖書では簡潔に書かれています。十字架刑は体に釘が打たれるだけでも激しい痛みですが、それだけではありません。体を貫

通した釘に体重がかかって、激痛と大量の出血が起こります。また肩にかかる力によって、呼吸困難になり、恐ろしい苦しみ襲います。肩の関節や肋骨も歪み、はずれたことでしょう。イエス様は全身から血を噴き出させながら、体を激しく震わせたと思われます。そのような状況で以下にある出来事が起きました。

「下着」とは一枚の大きなもので、物資の乏しかった当時は、一生大切に着るものでした。多くは息子が12歳で成人するときに、母が愛情と祈りを込めて織ったそうです。それを面白がってくじを引くほどに、イエス様は嘲弄されたのです。さらにはそれを見ていた「イエスの母」マリアは心が張り裂けるほどだったでしょう。そのような苦しみさえ聖書に預言されていたのです。それは私たちが救うための神様のわざです。それほどにその愛は大きいということです。

またイエス様は耐え難い激痛の中で、母マリアの今後を心配して、ヨハネに「息子」として面倒をみるように願いました。願いというよりは、ヨハネなら喜んでそうしてくれるという、信頼に満ちた宣言でもありました。

イエス様の心の中にはどんな状況でも、人に対する愛があるのです。イエス様は人としての弱さを持った状態で、そのように生きたのですから、私たちにも聖霊によってそれが可能であることを知って、主のために生きたいと願う人はそれを希望にしましょう。自分の愛を過小評価しないで、大胆に人を愛しましょう。

またイエス様からそのような無限の愛で愛されている自分の価値に感謝しましょう。何といてもイエス様の愛に感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

